



夏の事故に備えて

—内原小・救急救命講習—

6月15日(水)、内原小学校(山口謙校長)にて教職員、保護者を対象とした救急救命講習が行われました。

この講習は例年プール開きの時期に合わせて開かれており、当初は教職員のみでしたが、昨年からは保護者の方も参加出来る様になりました。

日高広域消防から救命士を招いて心肺蘇生法やAED、子ども相手の蘇生法などを実際に体験しながら学習。夏場の水難事故に備えました。

自身も心肺蘇生によって命を救われたことのある山口校長は、「事故が起きてしまったら、すぐに処置をしないと助からない。一人でも多くの人に心肺蘇生法を知ってもらい、もしもの時に動ける様になってほしい」と講習の重要性を話してくれました。

高校生が役場の仕事を体験

—インターンシップ—

6月9日(木)と10日(金)の2日間、紀央館高校(兒玉佳世子校長)の生徒2人がインターンシップで役場を訪れ、仕事を体験しました。

村田実咲さんは2日間に渡り、日高町子育て支援センターで保育士の仕事を手伝いました。

地域の人のために働きたいと思って役場のインターンシップを選んだ村田さんは、「子どもの相手は慣れていなくて大変だったが楽しかった。みなさんのために働けて嬉しい」と充実した様子で仕事を行いました。

また那須祥太郎くんは公民館内の図書室で蔵書の整理に従事。

公務員志望の那須くんは「本棚や保管している所には思った以上に本があり、並べるのは大変だった」と役場の仕事に苦労しながらも、「町の人役に立つには色々な仕事があるんだと思った。この経験を生かして、立派な公務員になりたい」と、やりがいのある2日間だったと話してくれました。



紀央館高校2年生

村田 実咲さん

那須 祥太郎くん



地域一体となった防災対策を —日高町職員熊本に派遣—

6月19日(日)~25日(土)の期間、日高町役場総務政策課の白井竜児主事が、熊本における災害支援のため益城町に派遣されました。

関西広域連合の和歌山代表の一員として派遣され、一週間に渡り災害による住家被害の認定の仕事に従事。住民のために力を尽くしてきました。

帰還した白井主事は27日(月)に松本町長に報告。現場の大変な状況を実際に見聞きし「業者や職員の負担が非常に大きくなってしまっていた。避難所運営などを自主防災組織や各地域の住民と協力出来る、地域一体となった防災対策が必要だと感じた」と語る白井主事に対し、松本町長も「無事に帰ってきてくれて良かった。日高町の防災に生かすために、この経験を職員や町民にも話して欲しい」と労われました。



いっしょに交通ルールを学ぼう —保育所で交通安全教室開催—

6月29日(水)に志賀保育所(松原千代子園長)で比井保育所(西本康子園長)、内原保育所(田村真由美園長)と合同となる交通安全教室が開催されました。

教室では和歌山県警察本部交通企画課の安全教育係(通称：ひまわり隊)が中心となって指導を行い、園児たちは歩道の右側を歩くこと、お父さんお母さんと手をつなぐことなどを、歌や踊り、人形劇を交えてしっかりと勉強しました。

また最後には和歌山県警察のシンボルマスコット「きしゅう君」が登場。

園児たちは大好きなきしゅう君と、交通ルールを守り飛び出さないこと、知らない人にはついて行かないことを約束しました。



不戦の誓い新たに

—日高町戦没者追悼法要—

6月29日(水)、町中央公民館において、町社会福祉協議会主催による日高町戦没者追悼法要が執り行われました。

法要には、遺族関係者を始め、松本町長、清水町議会議長、地元選出の県議の方々が参列し、戦没者400余柱の冥福を祈りました。

町社会福祉協議会の寺井陽子会長は「日高町は戦前には想像もできなかった繁栄を見えています。諸霊及びご遺族の方々が、多くの苦しみに耐え平和の為に尽力されたことに心から感謝し、明るく豊かな郷土、日高町を築き上げるため、より一層の努力を傾注する所存です。どうか見守っててください」と追悼の言葉を述べられました。